

解答

□

問一	瑞穂、五人
問二	倒置（法）
問三	うわ
問四	理香とトー
問五	ウ
問六	新鮮な
問七	エ
問八	イ
問九	ウ
問十	ア

□

問一	あまり細かいことは気にしない
問二	しり
問三	イ
問四	自分のからだ
問五	古い日本語
問六	ウ
問七	ウ
問八	共鳴
問九	自分の周囲
問十	エ

□

問一	ア 視野
問二	エ 制限
問三	ウ 飲料
問四	エ 宅地
問五	オ 認識
問六	イ お金
問七	世の中を大
問八	自分が「得
問九	（一）喜（一）憂
問十	地球の上に
問十一	エ 共有財産
問十二	エ 「所有」ではなく、どんなものも一時的に借りていると考え、自分も人も共に豊かになるという「シェア」の発想が求められており、そうした動きが活発化している若い人への期待が増している。

解説

□

問六	少し前の部分に、理香が音で俳句を楽しむことを瑞穂は「新鮮だった」とあります。同様に、真名についても、真名が句を清書してくれると印象が変わる句があることが「新鮮な」体験だったのだと考えることができます。
----	--

二

問九

からだの語源が「殻」であると述べられている部分に着目します。「自分の周囲に強固な境界を設け、他人との壁を設ける（こと）」と考えることができます。

三

問十二

「ものを『所有』することによって『儲ける』という発想で突き進んできた結果、地球環境は限界に近づいてしまっている」が、「世の中を大きな環境だととらえ、どんなものでも『一時的に借りているだけだ』と考えると見え方が変わってきます。」とあります。

『『ひとの幸福』は『自分の幸福』であり、『共に豊かになる』ことでしか、自分を豊かにすることはできない』といった筆者の主張を「共有」または「シェア」というキーワードを使ってまとめましょう。